経済研究の基礎

2011 年度 火曜クラス

担当　岩村 英之・田 暁利・山本 恭久

2011 年 9 月 27 日

1　この講義の内容

「経済学」と聞くと，まずは「経済のことを学ぶ学問」と想像する人がほとんどでしょう．しかし，実際は，そうした「中身」よりも，経済現象を考察するための「方法」や「道具」を学ぶという側面が強いのです．たとえば，講義で日本経済の好況・不況をテーマにとりあげたとしましょう．このとき，経済学の教員が，いきなり「なぜ好況や不況が訪れるのか」を話し始めることはありません．まず，経済の活動水準の変化を考えるための分析道具を組み立てるところから始めます．ここにかなりの時間を割きます．次に，この分析道具を用いて，何が経済活動の水準に影響を及ぼすかを考察することで，先の問いに対する答え（仮説）を探していくことになります.「経済学」という名前は，半分くらいはこの方法・道具のことを指していると言ってもよいでしょう.

むろん，どの学問にも独自の方法・道具がありますが，特に経済学においてその確立・標準化が顕著に進んでいます．たとえば「社会学」という学問では，分析方法・道具は多種多様であり，同じ「社会学」という科目であっても担当者によって内容が大きく異なることもあります．政治学も然りです．一方,「ミクロ経済学」「マクロ経済学」といった科目は，誰が担当しても概ね同じ内容になります.

この講義では，興味深いテーマを例にとりながら経済学の方法・道具をできるだけ丁寧に解説し，また実際に使ってもらうことで，経済学の特徴的な部分を集中的に体験してもらいます.

2　この講義の効能

(1) 経済系ゼミへの準備

方法・道具が標準化されているということは，ほとんどの経済学者が共通の方法・道具を用いるということを意味します．すなわち，分析の「対象」は教員間で異なっても，分析の「方法」はかなりの部分共通しているわけです．したがって，経済系教員のゼミを選択するということは，この「経済学の方法」に（ある程度）コミットすることを意味します．経済学の方法について何の知識も持たないままに，テーマだけで経済系のゼミに飛びつくと，ゼミの内容や議論の進め方に馴染むのに時間がかかってしまうかもしれません．他方，たとえば「政治関連のテーマに興味があるが，経済学の分析方法でアプローチしてみたい」という場合は，経済系教員のゼミも有望な選択肢のひとつになり，選択の可能性が広がります．このように，本講義での経験は 2 年次後半のゼミ選択の一助となるでしょう.

(2) 経済系の講義への準備

方法が標準化されているということは，ほとんどの経済系科目においても共通の方法・道具を用いて分析が展開されることを意味します．たとえば,「日本経済論」「国際金融論」といった 2000〜3000 番台の科目は，経済学の方法を日本経済や金融に適用した，ある種の応用科目です.「経済研究の基礎」で早めに経済学の方法に触れておくことは，これらの科目への準備運動となり，講義を楽しむ余裕を与えてくれることでしょう．なお，2 年次に履修可能な「経済原論」は，経済学の方法・道具を集中的に学ぶ科目となっています.

(3) まず敵を知る

国際学部には，経済学的な（あるいは新自由主義的な）考え方やそれに基づく政策とは距離を置く人も多いようです．しかし，経済学研究者以外の論者による経済学批判は，経済学に対する理解不足や誤解を原因としていることも多いです．批判的に乗り越えようとするならば，まずは相手の手の内を十分理解することが必要ではないでしょうか．その意味では,「ゼミでは経済学をベースにした研究はしない」という人こそ，本講義で扱う経済学のエッセンスくらいは理解しておかなければならないと言えるでしょう．

3　経済学の方法について

今,「消費税率を 10%に上げたら経済活動にどのような影響が及ぶか」を考察しようとしているとします．この問いに正確な解答を与える方法は，実際に消費税を 10%に上げてみて（かつ他の条件が変化しないように環境を制御して）何が起こるかをつぶさに観察するというものです．しかし，このような方法がナンセンスであることは言うまでもありません．そこで，経済学者は，本物の経済に似てはいるがずっと小規模で簡略化された「ミニチュア経済」を作り出します．さしあたりは，小さな箱の中に人間にみたてられたロボットがたくさん入っているような，文字通りのミニチュアを思い描いてください．もちろん，ロボットは人間と同じような，しかしより単純化された行動をするようプログラムしておきます．そして，このミニチュア世界で消費税率を上げてみて，ロボット達による経済活動がどう影響されるかを観察するのです．現実世界での実験の代わりに，ミニチュア世界のほうで実験してみるわけです．荒っぽい説明ではありますが，これが経済学の方法です．そして，このミニチュア経済がまさに経済分析の道具であり,「モデル」と呼ばれます．

もちろん，このミニチュア世界は現実経済の完全な縮小版ではありません．箱の中には日本の人口と同じ 1 億 2 千万のロボットがいるわけでなく，せいぜい数台のロボットしかいません．また，ロボット達は全てが別人格というわけではなく，2 種類の人格（たとえば男と女）しか存在しない場合もあります．さらに，このミニチュア世界では，たった 2 種類の製品（たとえば食料品と機械）しかつくらないようプログラムされているかもしれません．いずれにせよ，文字通り縮小するのではなく，どちらかと言えば複雑な現実世界を大胆に「単純化」してミニチュア経済をつくるのです．

現実世界を（目的に合わせて）単純化したミニチュア世界をつくり，そこで実験をすることによって経済問題への答え（仮説）を見つけるというのが，経済学の分析スタイルなのです．

4　数学について

上では「文字通りのミニチュアを思い描いてください」と言いましたが，実際にはミニチュア経済（＝モデル）は実物でもって作成されるわけではありません．それは，いわばコンピュータの中につくられた仮想世界のようなものです．したがって,「ミニチュアを用いた実験」も正しくは「仮想世界を用いたシミュレーション」ということになります．

ところで，仮想世界では人々の行動は数式で表されます．たとえば,「A さんは 10 万円の所得が与えられれば毎月 6 万円の支出をする」というように，インプット（入力）とアウトプット（出力）の関係は数式で記述されるます．したがって，個人の行動が集まった結果として形成される世界は，複数の数式の体系として表されることになります．実際，経済モデルは通常は連立方程式体系として表現されます．

このように説明されると，多くの人は，経済学の方法を用いるには数学の知識が必要なのかと不安になるでしょう．しかし，シンプルなモデルであれば，数式を使わずとも，図やグラフを用いることで十分に使いこなすことが可能です．この講義では（ほとんどの学部レベルの講義でも同様ですが），そうしたシンプルなモデルしか扱いませんので，数学の知識は前提しません．

5　ミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済学

なお，個別の消費者・個別の企業・個別の製品に注目し，そこから経済現象を分析していく場合には,「ミクロ経済学」と呼ばれる方法・道具を用いることになります．一方,「景気」や「物価」のような経済集計量に注目する際には,「マクロ経済学」と呼ばれる道具一式が使われます．また，各国経済の相互作用に注目するならば,「国際経済学」という道具を用意することになります.

本講義では，これら 3 つの分析道具の中から基本セットを厳選して学びます.

6　講義スケジュール

- 講義全体は 3 つのパート–ミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済–に分かれ，各パートは 4 回の講義で構成されます．各パートの担当者および内容は次のとおりです.

ミクロ経済学
担当：田 暁利
1 機会費用，予算制約，生産可能フロンティア
2 完全競争市場とグラフの見方
3 需要と供給，需要曲線・供給曲線のシフト
4 不完全競争市場

マクロ経済学
担当：山本 恭久
1 マクロ会計と経済主体
2 金融政策の役割
3 財政政策の役割
4 経済成長

国際経済
担当：岩村 英之
1 世界経済のつながり
2 なぜ貿易を行うのか
3 なぜ為替レートは動くのか
4 なぜ貿易・投資は自由でないのか

- 3 つのパートを消化していく順番はクラスによって異なりますが（次ページの表参照），どのパートからスタートするかによって有利不利が発生しないようにします.
- 学生諸君は 13 回全て同じ教室で受講し，新たなパートに移る際は教員のほうが教室を移動します.
- 必ず指定されたクラスで受講してください.

<table>
<tr><th colspan="4">クラス別 講義スケジュール</th></tr>
<tr><th></th><th>421 教室
11KS1001-1040,
4 年次生，他大生</th><th>422 教室
11KS1041-1086,
3 年次生</th><th>423 教室
11KS1087-1132
2 年次生</th></tr>
<tr><td>第 1 回（9 月 27 日）</td><td>ガイダンス（田）</td><td>ガイダンス（山本）</td><td>ガイダンス（岩村）</td></tr>
<tr><td>第 2 回（10 月 4 日）</td><td rowspan="4">ミクロ経済学
田</td><td rowspan="4">マクロ経済学
山本</td><td rowspan="4">国際経済
岩村</td></tr>
<tr><td>第 3 回（10 月 11 日）</td></tr>
<tr><td>第 4 回（10 月 18 日）</td></tr>
<tr><td>第 5 回（10 月 25 日）</td></tr>
<tr><td>第 6 回（11 月 8 日）</td><td rowspan="4">マクロ経済学
山本</td><td rowspan="4">国際経済
岩村</td><td rowspan="4">ミクロ経済学
田</td></tr>
<tr><td>第 7 回（11 月 15 日）</td></tr>
<tr><td>第 8 回（11 月 22 日）</td></tr>
<tr><td>第 9 回（11 月 29 日）</td></tr>
<tr><td>第 10 回（12 月 6 日）</td><td rowspan="4">国際経済
岩村</td><td rowspan="4">ミクロ経済学
田</td><td rowspan="4">マクロ経済学
山本</td></tr>
<tr><td>第 11 回（12 月 13 日）</td></tr>
<tr><td>第 12 回（12 月 20 日）</td></tr>
<tr><td>第 13 回（1 月 10 日）</td></tr>
<tr><td>第 14 回（1 月 17 日）</td><td>総括（岩村）</td><td>総括（田）</td><td>総括（山本）</td></tr>
</table>

7 成績評価

- 各パートで 2〜4 回の小課題（各回 2〜3 時間でできるもの）を出します．全て提出することが単位取得のための必要条件です．定期試験までに全てが提出されていない場合，自動的に成績を不可とします．
- 小課題は「10・5・0」の 3 段階で採点します．勉強した形跡がほとんど認められない場合には，0 点とすることもあります．
- 毎回，簡単なリアクションペーパーを書いてもらいます．全体を通じて欠席が 3 回を超える場合，課題や試験の点数如何にかかわらず最終成績を不可とします．なお，体育会系クラブの試合での欠席は通常の欠席と同様の扱いとします（いずれにせよ，3 回に達しなければ問題ありません）．
- 期末試験を行います．最終成績は，小課題（60%）と期末試験（40%）をもとに算出します．

8 教科書・参考文献

- 特定の教科書は用いません．適宜資料を配布します．
- 参考書は各パートごとに指示されます．

9 質問など

- 各パートごとの質問等は，パート担当者のオフィスアワー（TBA）を利用してください．
- 講義全体に関連する質問等は，コーディネーターの岩村までご連絡ください．iwamura@k.meijigakuin.ac.jp